

「令和8年産 麦作情報（第3号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象の概要（2月13日～3月3日までの気象、平年と比較して）

平均気温…3.3℃高い。

降水量……多い。（平年比188%）

日照時間…長い。（平年比110%）

2. 麦類の生育状況

（1）農試情報田の調査結果（3月2日付け 麦づくり情報第3号）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況4) (平年値または平均値と比較して)
1) シロガネコムギ	11/20	本年	33.7	711	7.7	46.0	【気象】 2/10～3/1 まで ◆平均気温…3.0℃高い ◆日照時間…長い(平年比117%) ◆降水量…多い(平年比175%) 【生育】 ◆草丈 「シロガネコムギ」は両作期とも低く、「サチホゴールド」は12/1播種でやや少なく、12/10播種で多い。「はるか二条」は12/1播種で平年並み、12/10播種で多い。 ◆茎数 「シロガネコムギ」は11/20播種で少なく、12/10で多い。「サチホゴールド」は12/1播種でやや少なく、12/10播種で多い。「はるか二条」は12/1播種で平年並み、12/10播種で多い。 ◆葉齢 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや多く、12/10播種で多い。「サチホゴールド」は11/20播種でやや多く、12/10播種で多い。「はるか二条」は12/1播種で平年並み、12/10播種で多い。 ◆葉色 「シロガネコムギ」は11/20播種で平年並み、12/10播種でやや濃い。「サチホゴールド」は両作期ともやや淡い。「はるか二条」は12/1播種でやや濃く、12/10播種で濃い。 ◆生育ステージ(次頁参照)
		平年	37.8	775	7.5	46.5	
		平年差(比)	89	92	+0.2	-0.5	
	12/10	本年	21.7	903	7.1	49.8	
2) サチホゴールド	12/1	本年	30.0	1114	7.9	44.0	
		5ヶ年平均	28.1	1135	6.8	44.7	
		平年比(差)	107	98	+1.1	-0.7	
	12/10	本年	28.5	1455	7.2	43.3	
3) はるか二条	12/1	本年	29.3	979	8.0	50.4	
		5ヶ年平均	26.4	979	6.8	48.5	
		平年比(差)	111	100	+1.2	+1.9	
	12/10	本年	27.4	974	7.2	51.9	
	12/10	平年	25.7	904	6.5	48.8	
		平年比(差)	107	108	+0.7	+3.1	

農試情報田の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	1/27	2/18	2/21	未
		前年	2/3	3/1	3/5	4/7
		平年	1/30	2/18	2/22	3/30
	12/10	本年	2/23	未	未	未
		前年	3/5	3/17	3/19	4/11
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
サチホゴールド	12/1	本年	2/4	2/25	2/27	未
		前年	2/13	3/12	3/14	4/8
		平年	2/8	2/27	3/5	3/31
	12/10	本年	2/9	2/28	未	未
		前年	2/18	3/13	3/16	4/11
		平年	2/11	3/3	3/7	4/3
はるか二条	12/1	本年	2/4	2/24	2/26	未
		前年	2/13	3/8	3/10	4/7
		平年	2/8	2/25	3/3	3/31
	12/10	本年	2/7	2/25	2/27	未
		前年	2/18	3/10	3/12	4/11
		平年	2/9	2/25	3/1	3/31

(2) 三神管内の調査結果(調査日: 3/4)

調査日	場所	品種名		播種日	苗立ち数 (本/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈 葉数(L)	備考 (平年と比較して)
3月4日	上峰	シロガネコムギ	本年	11/24	205	41.2	769	7.0	・ 平年の播種日は11/15～12/8 ・ 草丈は高く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育はやや進んでいる。
			平年	11/25	164	28.2	708	6.6	
			平年比(差)	-1	125	146	109	+0.4	
3月4日	みやき	はる風ふわり	本年	11/17	143	37.0	699	7.4	・ 平年の播種日は11/15～11/19 ・ 草丈は高く、茎数は少ない。 ・ 葉齢から見た生育はやや遅れている。
			4ヶ年平均	11/20	119	31	745	7.7	
			平均比(差)	-3	120	119	94	-0.3	
3月4日	鳥栖	はるか二条	本年	11/21	173	38.2	806	7.1	・ 平年の播種日は11/20～27 ・ 草丈は高く、茎数は多い。 ・ 葉齢から見た生育はやや遅れている。
			5ヶ年平均	11/22	123	29.6	747	7.4	
			平均比(差)	-1	141	129	108	-0.3	

注1) 「シロガネコムギ」の平年値は、H27～H29及びR4～7の7ヶ年のうち、収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年の平均。

注2) 「はる風ふわり」平年値は、調査を開始したR3年産から5ヶ年の平均値。

注3) 「はるか二条」平年値は、調査を開始したR2年産から6ヶ年の平均値。

(3) 管内の生育概況

- ・ 平年と比べて気温がやや高く、2/下旬の適度な降雨で、停滞気味であった生育が進んだ。茎立ちは平年より早い傾向にある。草丈は平年より高く、葉齢は平年並み～やや遅れている。
- ・ 11月20日頃に播種された小麦及び11月中に播種された大麦では、茎立期頃となっている。
- ・ 今年の出穂期は、前年に比べてやや前進すると予想される。

〈佐賀農試：出穂期推定プログラム(3月4日時点、以降の気温は平年値で試算)〉

○はる風ふわり

○はるか二条

11/17 播種：推定出穂期 3月25日

11/21 播種：推定出穂期 3月24日

11/25 播種：推定出穂期 3月31日

11/26 播種：推定出穂期 3月27日

12/5 播種：推定出穂期 4月5日

12/1 播種：推定出穂期 3月30日

※今後の気温によって出穂期は大きく変動するため、あくまで参考値とする。

3. 今後の管理

(1) 穂揃期追肥(実肥)(出穂期頃～)

- ・ 本年の小麦の出穂期は前年に比べてやや前進すると予想されるので、遅れないように穂揃期追肥を行う。

出穂期：有効茎数の4～5割が出穂したころ



出穂期頃の小麦

～穂揃期追肥を適期・適量実施することで目標タンパク値を目指しましょう～

特に、パン用小麦(「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」)では、タンパク含有率はパンの膨らみ等に関わる重要な事項であるため、必ず施用する。

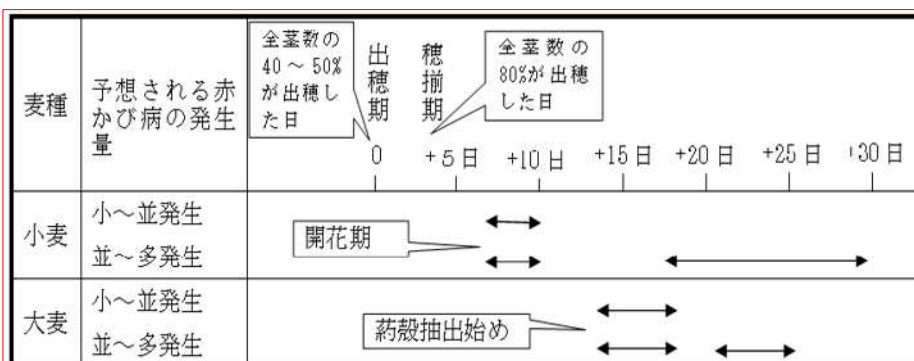
(参考) 穂揃期追肥の施肥基準目安

品種	穂揃期追肥 kg/10a			
	硫安の場合		尿素の場合	
前作	水稻跡	大豆跡	水稻跡	大豆跡
さちかおり	30	30	13	13
はる風ふわり	25	25	12	12
ミナミノカオリ	20	20	10	10
チクゴイズミ	10	10	5	5
シロガネコムギ	10	10	5	5

※シロガネコムギは、葉色が淡い場合(出穂期頃の SPAD 値が 40 以下)に施用する。

(2) 赤かび病防除

- ・ 赤かび病感染適期は開花期～乳熟期で、高温多雨(20～27℃)で経過すると激発する。
- ・ 赤かび病防除時期については、防除適期を逃さぬよう早めの準備を行う。



注1) 出穂期とは全茎数の40～50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは40～50%の穂が開花した日。

注3) 大麦の葯殻抽出始めとは、50%以上の穂で葯殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用方法(収穫前口数)に特に注意する。

注5) 矢印は防除適期を示す。



大麦の葯殻抽出期



小麦の開花期

【大麦防除時期】

- ・ 葯殻抽出始め（出穂の約2週間後）に防除。
- ・ 多発生が予想される場合は2回実施（1回目防除7日後）。

※「はるか二条」「しらゆり二条」については2回防除をおこなう。

- ・ トップジンM水和剤を大麦等で使用する場合は、収穫30日前までの使用となっているので注意する。

【小麦防除時期】

- ・ 開花期（出穂の約7～10日後頃）に防除。
- ・ 多発生が予想される場合は2回実施（1回目の10～20日後）

※「さちかおり」「はる風ふわり」「ミナミノカオリ」については2回防除をおこなう。

（3）網斑病防除（大麦のみ）

- ・ 一部の圃場で網斑病の発生が確認されている。
今後、気温の上昇に伴い病斑の進展が予想される。
- ・ 登熟に影響し減収・品質低下の原因となる為、上位葉で病斑の進展が確認される場合は、防除時期にチルト乳剤で防除する。
（防除適期は出穂期、チルト乳剤は使用回数1回に留意）



大麦の網斑病

（4）黄斑病対策（小麦のみ）

- ・ 昨年産では一部の圃場で黄斑病の発生が確認されている。
- ・ 降雨などによる多湿条件と10℃以上の気温条件で伝染が助長され、発生が多いと減収・品質低下の原因となる。
- ・ 発病には品種間差が見られ、シロガネコムギは耐病性があるが、その他の品種は発病が多い傾向がある。
- ・ 昨年産で同病が多発した圃場において、夏作が水稻かつシロガネコムギ以外の品種を連作する場合は、発生状況に注意し、上位葉で病斑の進展が確認されるときは、出穂期にチルト乳剤で防除する。※赤かび病と防除時期が異なるので注意。



小麦の黄斑病

（5）排水対策

- ・ 本年は定期的にまとまった降雨があったことから、一部の圃場では畝間に水がたまり、湿害による茎葉の黄化がみられている。
- ・ 今後の降雨に備え、土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように整えておく。
- ・ 特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。

(6) 雑草対策

- ・一年生広葉雑草を中心に雑草の発生が目立つ圃場が一部でみられる。
- ・すでに使用できない薬剤もあるので、処理時期に注意して早めの散布を行う。

生育期除草剤 使用例 （大麦は散布可能時期を過ぎている）

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10a 当たり			
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～200ml	70～100L	雑草 3～6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで	1 回
ハーモニー75DF 水和剤	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	5～10g	100L	小麦のみ 播種後～穂ばらみ期まで 収穫 45 日前まで	1 回
	ハーモニー75DF 水和剤使用上の注意点 ・播種後にハーモニー細粒剤 F を散布した圃場は使用不可 ・薬害が生じ易いので周辺作物に注意 ・使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない ・サーファクタント30との併用を推奨 一年生広葉雑草の例 ミチヤナギ、タデ類、トゲミノキツネノボタン、アメリカフウロ、ノミノフスマ（ヤエムグラ、カラスノエンドウには効果が弱い。）				



3/4 シロガネコムギ生育状況

令和8年産 麦類生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀， データ更新日：3月4日)

三神農業振興センター

